緑丘新聞

發行所 小樽商科大學 緑丘新聞部
[illegible] 岩田 [illegible]
印刷所 角印刷所
購讀料 1年 200圓 半年 100圓

入試要項發表さる

小樽商科大學短期大學部（夜間）

唯一の國立商大として今後を期待されてゐる、本學では、[illegible]する道内の商工業界の要望もありかねてから、短期大學部を設置して勤勞者のための大學を樹立すべく、努力中であつたが、このたび、文部省から正式に許可があり、來春早々開學のはこびとなる事となり、このほどその入試要項についての發表が行はれた。

以下その細部について記す次第である。

二月二十二日商大當局は小樽商科大學短期大學部へ（夜間）の募集要項に就き細目を發表した。

○名稱及募集人員
　小樽商科大學短期大學部（商學科）八〇名
○願書受付期間
　昭和二十七年三月五日より二十五日まで
○試驗期日
　四月十一日より十四日まで
○入試
　身体檢査
　學力檢査＝社會、國語、英語、數學又は簿記
○試驗場　本學
○合格者發表　四月二十四日
○入學式　五月六日
○進適＝進適未受驗者のために本學のみ實施す。
○認定試驗＝舊中卒者のために今年に限り、本學において大學入學資格認定試驗（英、數、國、社、理）を行ふ。

尚入試は、一般勤勞人を對象とする性格上、土、日曜及、非勤務時間に行ふ。

十一日（金）午后六時より
十二日（土）午后一時より
十三日（日）午前九時より
十四日（月）午后六時より

高商クラブで協議會

二月二十七日、高商クラブに於て、小樽商科大學短期大學部設立促進期成會の會議がひらかれ、小樽市長、[illegible]、市會議員をはじめ、多數の出席があり、本學側からも學長はじめ、係員が出席して種々懇談がなされ、今後の方針について種々協議された。

論説

多喜二忌を迎えて

今を去る十七年前——昭和八年二月廿一日の夕刊は一齊に小林多喜二の死を報じた。緑丘の生んだ〃鬼兒〃はその多難であつた斗爭の一生を築地署の留置場に於て閉じたのである。

多喜二の上に起つた悲劇は、まさしく日本の悲劇でもあつた。ファッショは、ますます、跳梁し軍閥はその地歩をいやが上にも强化して行つたのである。

第二次大戰の終了と共に悲劇はその幕を閉じたかに思はれた。民主、自由、の聲は、巷に溢ちあふれ、人々の顔には、明るい希望が輝き新らしい建設への意欲は高まり着々とあゆみが續けられて行くかに見えたのである。

然し、現在我々は、時代が逆轉しつつある事をひしひしと感じ又見せつけられる事を否定し得ない。朝鮮における米ソ兩陣營の衝突はその最初に與へられた恐怖であり、講和條約、安保條約の締結は、國民の意志如何にかかはらず、吾々を對立の戰列中へと追ひやつたのである。しかもこの様な逆行の中に、火砲を持ち、戰車を持たんとするといふ途方もない暴説が堂々と横行され、しかも一千億を越える莫大な豫算が、このために計上され、一方では、わづか一[illegible]のために、授業料の値上げをしようといふのである。ここまで至つても尚、一片の不安をも覺えず一片の疑ひをもさしはさまぬものがあるとしたならばどうであらうか。しかも、この様な事を言はなければならぬ程國論を樂觀してゐるものがないと果して云ひ切れるであらうか。まさしく、之は日本にとつて、ひいては、世界の平和にとつて、重大なる脅威である。吾々は、平和が、吾々のたえざる努力によつて守られなければならぬ事をここに力說するものである。

平和は、我々の心のうちにある理想ではない。我々の周圍にある事實が平和につながらなければならないのである。平和は、頭の中に生れるものでなく、我々の實踐のうちに、たくましく成長する。

平和への道は、まさしく苦難の道であり、我々の歩むべき道であり、多喜二の歩いた道であつた。多喜二の精神は我々の内にも今尚生きてゐる。

多喜二は死んだ、だが多喜二の精神、多喜二の意欲は死なない。

我々は、多喜二の命日を迎へるにあたり、多喜二の死を無意味ならしめぬ事をここに深く新たに誓ふ事が必要である。

知識人の協力で
平和教育委員會

二月五日から開かれた日教組文化部長會議では次の主要な問題が討議された。

（一）第一回全國研究大會の反省と第二回全國研究大會の件
（一）山びこ學校協力に關する件
（一）平和教育委員會と平和擁護に關する件
（一）戰爭おもちや追放について

今回の文化部長會議は一昨十二月中央委において決定した諸問題の具体化とみられているが、〃教育と平和〃について教師の立場から取組んだといわれる〃全國教育研究大會〃をはじめ既に大阪府等においては主婦等と協力して戰爭おもちや實態調査、百貨店、問屋や教育委に對する働きかけがおこなつているだけに、これらの全國的普及が討議されるもよう。一方、最近五十万教職員に訴えた知識人の平和アッピール〃も日教組を中心にする平和運動が大きく取り上げられているが、この會議では學者、知識人の協力をえて、平和運動の指導的援助を目的とする平和教育委員會を今中次麿、勝田守一氏ら學者の協力を得て設置すべく考慮中といわれる。

× × ×

學生専用療養所
建設資金カンパ始まる

日本學生救濟會は學生結核問題懇談會と共に、學生サナトリウム建設會を組織して、國内、國外に對して募金計畫を樹て目下運動中であり、國内に於ても、東大、京大、一橋大、中央の學生からの醵金は成功した。

本學に於てもYMCAがこれを取り上げ、廣く一般に援助を求めると共に、學生委員會の援助を求め、學生有志から一口拾圓募金を實施中である。

◇岡林宏君談◇

本學にも結核學生は十數名あり問題視されて來たが、その對策の責任は我々學生にある。

先づ理想の學生サナトリウムを中央に建て、これを契機として全國的にこの運動がひろがり、全國各所に學生サナトリウムを建てたいと思つてゐる。

× × ×

根こそぎにされた人
小林多喜二の緑丘生活
多喜二二十七年忌を前に

小林多喜二、彼の緑丘生活は校友會會誌に於ける文藝欄に濃縮されてゐる。商業學校時代の彼は、繪をよくしてゐたと云ふが、商大に入るや、明らかに文學をば其の生涯の業として選擇した。

大正十年一月の會誌第二十三號に〃ヂュエルと夢〃と題する戲曲を發表してから後は、毎號小林多喜二のペンネームが會誌を飾る事となつたのである。第二十四號には〃掴み〃と題する小品を發表した。之は作品中の主人公が戀愛に夢中になつてゐるのを忠告した彼の無二の親友を殴り殺して了ひ、[illegible]時にその[illegible]に悩まされるが、然し殺した女の爲にどうする事も出來ないといふ。〃ポオばりの小品で、そのむすびに、——あゝ私にどうせよと云ふのか。然し私にはどうも出來ないのだ——恐らく諸君にも！〈〃ポオにならひてと〉書いてゐる。此の頃の多喜二には、未だにプロ文學への芽生がみえず、私小說的な作品より書いてゐなかつた。第二十五號には〃[illegible]〃二十七號には〃[illegible]〃と云ふ、フランスのアンリバルビュッスの短篇の翻譯を試みてゐる。

多喜二は、此の作家に余程心醉してゐたらしく「强者」の序文にゾラ以來の「現實を求んずる此の作家を口を極めて稱讃してゐる。此の二篇の外にも多喜二は此の作家の小品を多數評して居り、此の作家の多喜二に與へた影響は非常に大きなものがあつたらしい。このあたりに後年の多喜二への芽生えがあつたのかも知れない。大正十二年の第二十六號には〃繼祖母の死〃と云ふ作品を發表してゐるが、此の作品は、校友會會誌にのせられた彼の作品中でも最もまとまつたものであり、心憎いばかりに美しい三十女の繼祖母の井戸に投身自殺する迄の心理描寫を試みてゐる。此の頃から多喜二は專門に會誌の編輯に乘り出したらしく、編輯後記に〈多喜二〉のペンネームが小さく目を引く様になつた。三十號には〃ロクの戀〃三十二號には「ある役割」を發表したが、之が彼の緑丘時代の最後の作品であつた。

その後新興のプロ作家としての地位がそろそろ確立して來た頃に、第三十八號に〃人を殺す犬〃を寄稿してゐる。たこ部屋の悲惨な人生を書いたものであり、小樽時代の習作的な域をぬけ出し地に着いた名作であつた。

高商時代を通じ文學とマルクス・レーニンの著作と四つに取組んで生活した此の〃鬼子〃は勿論學校では〃善良なる學生〃ではなかつた。文學に沒し目もない多喜二にとつては〃法律〃〃金融論〃〃配給論〃〃原價計算〃等云ふ數多い學校の課程がいかにつまらないものであつたかは想像に難くない。彼は、緑丘を下らんとする時に當り、第三十二號の後記に——學校とは地獄である、地獄とは先生が圖書館のなるべく生徒が見ないであらう所の本をいかにせば自分の意思として生徒に教へるかを得らうかと云ふことである——と云ふ一文を草してゐる。そして最後に〃クラルテ〃の刊行を[illegible]して全くの文學學生として多彩なプロ作家としての道へと解放された氣持で地獄坂を下りて行つた多喜二であつた。

新學年早々實施か
各寮の賄婦問題

昨年に大体決定されてゐた各寮勤務の賄婦整理案はいよいよ新學年早々に實施のはこびに至る模様である。この件に對する事務局側の案は大体次の様なものである。

即ち、現在各寮に配置されてゐる賄婦は公務員となつてゐるが、これをそのわくよりはづし、寄宿舎勤務者として、定員の増加を計らうとするもので、この点については、昨年中に、各寮幹事とも了解がついてゐる所である。

これと同時に、賄婦中二名程度が整理されるものと見られ、この被整理者に對しては、普通退職者の十六日分支給を大分上廻る金額が支給される事になつてゐる。尚この整理に際して賄婦の配置轉換が行はれるかどうかについては不明である。

遠川助教授の經過良好

遠川助教授は、昨年末三回にわたつて、胸部整形手術を受け、九本の肋骨を切除したが、その結果、病狀は好轉し全快は時日の問題となつた。しかし、滿二年に及ぶ療養生活と、長期間のアフターケアが要求される事情に困難な面が多いと有志は心配してゐる。

〃なぜ勉強してないんだと、僕の先生から叱られた夢を見てね……二年經つてやつと病人になれたよ、病人は馬鹿でなくちやならないんでね、頭腦も[illegible]でしなければとも思ふんだ〃とベッドから語る顔にはさすが病氣のかげが見うけられたが、口調もすつかり元氣で、[illegible]はすつかり昔のままだつた。

尚、同助教授のために輸血奉仕を申出た數名の學生があり教授の[illegible]の誠實な學生の[illegible]のまととなつてゐるが、これらの學生の果した役も忘れられてはならない。

留學生試驗合格

本學出身、昭和十六年卒[illegible]氏（[illegible]）は此度の[illegible]留學生試驗に合格した旨、本學に通知があつた。

授業料納入状況

二月二十五日現在、授業料、寄宿料及學友會費の納入者は左の通りで、至急納入する様促してゐる。

○授業料　四〇名
○寄宿料　二五名
○學友會費
　一年目　前期　後期
[illegible]

[illegible]者は、寄宿料を納入するかどうか[illegible]ならない事がある[illegible]る。

入試
十四倍の競爭

本學では入學願書受付を二月三日で〆切つたが、百四十名に對し千九百六十名と十四倍の競爭率となつた。これは開校以來の新記錄であり名實共に狭き門となつている。東京試驗場は三百五十名で昨年の倍である、女子は少く二十名を數えるに過ぎない。

焦点

[illegible]

新商法準據
商業簿記要論
小樽商科大學教授 石河英夫著
A5 定價 三〇〇圓
實務家 學生 公認會計士志望者の待望書
遂に出づ
新星社 刊行

サッポロ
同窓生の經營する
千秋庵
菓子・喫茶・洋食
[illegible]

これからの「就職」

――緑丘の就職戰線に異狀あり――

岡本理一

一

いまごろ、「來年の就職」――の話をすれば、例年なら、大分、早すぎるように思われたであろう。しかし今年からは「明日ではおそすぎる」と考えられるほど、のんびりできなくなつてきた。

從來、本學は就職率の良いことで、我が國有數の學園であつた。「卒業」が「就職」に直結し、皆が學生服からなんの苦もなく背廣服に着かえられたのは、一寸、同種他校では見難い事柄である。

「何が就職率を良くさせたか」――これにはいろいろの理由があげられる。

まず、創立以來の「小樽高等商業學校」の良い傳統が、大きくものを言つていることは否定できない。約十年の長きにわたり、古い卒業生の人々が、地元の北海道や、東京方面、關西地方の經濟界その他で多大の業績をあげ、良き世評と堅い地盤をきずいてきたことが、後からつゞく卒業生の就職に非常に幸いしている。

また歴代の校長や、いまの大野學長が、この方面に深い關心をよせ、一人々々の就職に何かと斡旋の勞をとられたことも、他方における、卒業生が割合に眞實で忍耐心の強いことや、北海道經濟の發展にともなう地元採用の漸増等と相俟つて、就職率向上の大きな原因となつている。

ところで、このような事柄は、「商科大學」になつたからとて消え去らない。緑丘會員の先輩諸校は、依然、後輩卒業生に引きの手をさしのべるであろう。また「小樽高商」――「小樽經專」で買つた好評は、多くの銀行、會社に認められ今後、たとえ、そこに先輩の人がいなくとも、一應、求人の申込があるに相違ない。更に大野學長は「就職問題」につき、人一倍、熱心で、すでに昨年も上京中余暇をみては銀行、會社を訪問し、採用の斡旋に努められたようである。更にまた、本道の總合開發も進展するから、地元の需要も増加してくることであろう。

二

しかし以上の理由で、來春、本學を卒業する學生諸君の「就職」に安心はできない。それは要するに、來年以降、我が國の「大學卒業生」の供給と需要の面に、いわば就職界の構造的變化とでも稱すべき現象と非常に異る様相がみられるからである。

供給の面――周知の通り、全國に新制大學の數は甚だ多く、商學や經濟學關係だけでも國立、公立、私立、それに短期大學が加えると卒業生は莫大な數にのぼる。大學卒業生の數の多いことにおいて、來年三月は未曾有の狀況と言い得よう。しかもどこの大學でも、いわば「採用」の就職だというので、その獲得に懸命の努力をなする結果、「賣手の」の競爭は、一層、はげしくなつてくる。學生自身はそれぞれ手づるを求めて就職口をさがすであろうし、大學當局も一人でも多く…と賣込にあらゆる手段を講ずるに相違ない。

ところで、このような供給面のはげしい競爭は、おのずから求職や求人の時期をくりあげ、「就職戰線」は意外に早く展開せられてくる。例年なら夏季休暇あけの九月に就職事務を開始したが、ことしは四月から着手せねばならぬ。あの期待をかけた學生生活「最後の休暇」（夏）を、銀行、會社への就職試驗や面接に忙殺して、忙しくすごす人が少くないであろう。

需要の面――これに大きな期待はかけられない。それは各商社とも、最近の經濟情勢を反映して、嚴く經營の合理化をおしすゝめているからである。このような緊縮方針に加えて、諸官廳の行政整理と採用人員の減少、工場、會社の規模縮少と倒産にもとづく失業者の増加――等々は、それだけ新卒業生の職場を狹める結果となる。一部の特需會社にうるおう金へん會社や糸へんの繊維會社等で、或は多くの求人をするかもしれないが、到底、多數の卒業生の消化はできない。そこで來年下半期に經濟界が好轉することあつても、需要の面は甚だ窮屈で、「就職難」の聲が街頭にあふれることであろう。

もうこれからは、各銀行會社とも新社員の採用條件を、一層、むずかしくして文字通りの「嚴選主義」を建前としてくる。學業成績健康狀態、性格、家庭事情思想傾向等々、これらをよく綜察して、自社向きの人物を採用するのであつて、少しでも不向きの点があれば、「お斷り」というのが今後の採用方針である。したがつて「求人」の申込があつたからとて直ちにそれを確定した「就職口」とみることは許されない。銓衡の結果、商社側の意嚮する人が採用されてこそ、はじめて關係は同一視できる。以前のように、求人口數が多いからとて、決して安心のできぬ理由がこゝにある。

なお、給料の差し、各商社が自己の支拂能力に應じてきめるので、不均衡のあるのは免れ難い。支拂い得るだけの給料を與え、もしそれで不服ならきていらぬ――というのが、今日、各商社のとる態度である。同じ卒業生でありながら、初めから月給で二千圓も三千圓も開きを生ずることも珍しくないであろう。

三

「夢よ、もう一度」――これを念願して、次のことを學生諸君に望みたい。

先ず諸君は事態をよく正視して、いまからその用意をしてほしい。學業成績をあげるの要あることはいうまでもない。就職のためだけでなく、自己の教養を高めまた專門の知識、技術を修得するためにも、本當の勉强をすれば、相當數の「秀」や「優」はとれるはずである。よく高踏的な態度をとり、授業に怠け、試驗にも不勉强、試て優字の大きいところを示そうとする者もあるが、このような者にかぎつて、いざ就職試驗となれば全く落着きを失い、その結果も甚だ惡い。どこへ行つても不採用、ついに卒業式の間近にせまつた頃「どこでもよいから世話してほしい」と原先生へ泣きついてくるのは、このタイプの者に多い。

次に健康狀態も、最近、非常に重視されている。呼吸器系の疾患あるものは、ほとんど不合格で、特に銀行や一流商社では、絕對に採用しない。どこでも自社の指定醫や關係病院で精密檢査を行うから、隱し通せるものでない。心配のある者は、醫師ともよく相談して、一日も早く對策を講ずべきである。

更に家庭事情も、たいていの會社で詳細に調べるようになつてきた。會社によつてはこれを非常に重視し、ときに採否決定の鍵とすることもある。戶籍謄本の複雜なのは、あまり好まれないから、正常化し得るものなら、早く直しておいた方がよい。

もちろん大學當局としても、今までのまゝでいて、よいというわけでない。學生係の機構を整備し、もつと計畫的、合理的に仕事をして行かねばならぬ。事務の圓滑化や能率化も必要であろう。そして早い時期に教官や職員が手分けして、道内はもちろん、東京や京阪神地方の銀行、會社を個々に訪問し、新卒業生の採用につき、依頼して廻らねばならぬ。特に緑丘會員とは緊密な連絡をとり、後輩卒業生の就職先開拓につき一層の協力を願わねばならない。

「來春卒業する百五十名の完全就職」――これが私達の念願である。このため再び學生諸君に事態の正視による奮起を望むと同時に、緑丘會員各位の舊に倍する協力を願い、學內の當事者としても一層の努力をしたいと思うものである。

マツキンノン先生のこと（２）

菅谷重平

この度に歸つた人が川崎を訪ねておつたようでありましたが、一人が二郎位田していたようでありましたから、まあ三、四十歳位入つたわけでありましょうが工場へ行つて働いている數人の方はどうなつているのかお知らぬのでありますが、そういうものがマツキンノン先生の生活の源泉でありましょうとなつているのでありましょう。

そこで、奥さんの方も二十數年日本に居たというのですから「日本へ行きませんか?」と勸めますと、まんざら惡い氣持でもなさそうでした。行きたいような樣子でありました。「マツキンノン先生はいくつですか」と奥さんに尋ねますと六十才だというんでありますが、あの人は細い小柄な人でありますから、そう年を取つても見えませんでした。健康でもあるようでした。

マツキンノン先生が工場へ行つて働いている。又二世に日本語を敎えているとこういうことをいうと、先生が大變困つているように想像するんでありますが、これは、アメリカの生活水準というものについて考えねばならんのでありましてアメリカの生活というものからみれば或いは困つているというのであるかも知れんが、然し、アパートの一室を借りているというのでもありませんで、立派な獨立の家屋に住んでいるのでありますし、その娘さんはカリフォルニアの大學の圖書館の司書をしていたというんでありますが、それもフォードの自動車を持つておりまして、マツキンノン先生の家のまえに置いてありました。私がカリフォルニアの大學へ行くときに、借りて行つたのです。ですから、何か、非常に先生が落ぶれているというようにも考えられるかも知れませんが、そんなに落ぶれている譯でもありません。「マツキンノンは職工みやつているそうだ」というと何だかうらぶれているようでもありますが、そういう意味ではないのであります。で「お前歸つたら、私のことをよく日本に傳えてくれ」とそう頼まれておりますので、私は間違なくこれをお傳えしなければならぬ義務を持つているわけでありますが、ただ、簡單にマツキンノン先生の事をはなしますと誤解を生ずる恐れが多分にありますので、くわしくこの日の模樣をお話しして、誤解のないようにお傳えしたい」と思つたわけであります。そこで、こんどは十時頃になつて私がいよいよ歸る時になりますと「お前歸る途を知つているのか」というんですが、「いや近所には知らぬ」。「では歸るホテルは何つているのか」というので「ヰチルなら知つている」。「いやそういうくわしいことは知りませんが自動車さえ拾えば何處へでも連れて行つてくれます。私は聞いことを覺えようとはかゝつていないのです。メイプ・ホテル・ハンチングトン・ホテルとただそれだけしか知りませんが。それだけでも充分行けるからそこはまあ安心して下さい」という心した様でした。夜、十時すぎにマツキンノン先生のお宅をおいとまをしてホテルに歸つたんでありますが、これがマツキンノン先生を訪ねた時の話しでありますが、歸國してから慶應大學で日米親善學會の年次大會が開かれました時に吉澤先生がお見えになつておりましたので、取り敢えず大野學長まではマツキンノン先生に會つたということを傳えてくれというお名刺に書いてお渡ししまして、そのうちに學生新聞にでも書きますからという約束を致しましたので、そこでこれを書いてお傳えすることに致しましたのであります。

マツキンノン先生はカリフォルニア大學で學位をとる前には確か山口縣の中學校の先生をしていたようでありまして、乃木大將のハガキを額にしてお部屋にかけてありましたし、その外に日本畫の掛軸も二、三點かけてありました。やつぱり、あゝいうところは日本に長く居りましたので、例えば日本國民が崇敬している乃木大將とか、或いは日本獨特の藝術とか、そういうものに興味を持つているんだろうと思うのであります。それから、これはマツキンノン先生に限つたことではないのでありますが、所謂日本婦人と結婚した人ずつとふるくはベルツ博士のような、あの日米關係の創始者といわれる人も確か日本婦人と結婚しておりますのですが、この日本婦人と結婚する外國人というものについて私共は、ともすれば、一つの醉狂から結婚したのかと思つていたのでありますが、そうではなくて、やつぱり、日本に長く住もうとか、或いは日本で仕事をしてみようとかいう人はその爲には日本婦人と結婚した方がより都合がいゝという理由からして結婚しているのが普通だと思うのであります。マツキンノン先生もその一人であつたと思うのでありますが、まことに日本の理解者であつたと思うのでありますが、戰爭中に官憲が札幌の刑務所の中にマツキンノン先生を入れて、日本人になれというようなことを强迫したという、このことはまあ戰爭中で、國民が上下を擧げて氣が狂つていた時代でありますから、マツキンノン先生にはお許し願わねばならぬところでもあり、且つまた、マツキンノン先生も氣が狂つた日本人のやつたことゝ、大して問題にはされていないのだろうと思うのですが、このことは返すがえすも殘念なのであります。

それからもう一つはアメリカの家族生活のことでありますが、マツキンノン先生の子供さんは何れも日本でいうよく出來た子供さん達でありますことは前にも申上げた通りでありますが、長男の方はボストンの方へ行つてしまうし、娘さんの方も結婚して何處かへ行つてしまう。そこで老先生だけが別に暮している。勿論たくさんの貯えでもあるならそれでもいゝんでありましょうが百人が百人まで貯えはない。あるいは養老院というものがあつて、どれだけのことをしてくれるのかは知りませんが、とにかくそういう國の老夫婦という家族生活というものがないものは非常に氣の毒なような氣がするのであります。と同時に、これからの日本というものもやつぱりそういう形になつてゆくのでありましょうが、何となく私なんかにはそこのところが非常に不思議にも感じられたし、また完全な養老院のない日本に就ては若干寂しい感じがしないでもなかつたんであります。

それからアメリカの大學というものについてですがこれは規模も設備も非常に大きなものでありまして、まあ日本では想像もつかぬようなものであります。何でもケチをつけるのが好きな日本人でありますからカリフォルニア大學にしても日本の大學に比べてどこの大學よりもおとつているように考えねばならなかつたのでありますが、ところがどうして、日本の大學位小規模で設備の不完全な學校というものはアメリカでは見ませんでした。日本がかつて一等國であつたというのは軍備だけの一等國だつたんでありまして、後は何んにも一等國らしいところのものは持たなかつたんだと思うんであります。それでも、湯川博士が出たじやあないかというかも知れませんが、これ程、ノーベル賞を世界でも貰つていない國は日本位のものでありまして、讀し、アメリカとかエヂオピヤとかいうところはそうかも知れませんが、いやしくも、文明國なしていてノーベル賞も貰わなかつたというのは、實は日本位のものなのでありまして、日本より小さい、日本の何分の一しかない小さな國でも、ノーベル賞を三人も五人も貰つているのでありまして、これは何れも自根にならぬのでありますがこの日本ばかりがいゝんだということで、すつかりのぼせ上つていたという事態であります。が、こういう考えが、實は日本の科學の進歩を非常にさまたげていたのでありまして、國際ばつかりが榮えているという理由になつているのであると思うのであります。で、これからの學問というものは、やはりよい設備を持つたものでなければだめだ、謂ばつありの問題ではないと思うのであります。だから日本のような貧乏國が、二百も三百もいゝかげんな大學を作つて、數だけで學問の水準を上げようとしたつて、それは恐らく出來ないことなのでありまして、あのカリフォルニアの大學の構内に、一つぱい自動車がパーキングしておりますのですが、何れも學生と先生達の乘つて來た車だということでありまして、まあ日本もせめて學校に行くときに自分で自分の自動車を運轉して行けるようになつてほしい、これは大變よいことだと思うのでありますが、そういう時代は、とにかく私共の生きているうちには參らぬと思うんであります。このカリフォルニアの大學ではやつぱり原子力の研究の研究をやつていて、こんな話を聞きましたが、まあ何處の大學でも [illegible] 大學では特に原子の研究 [illegible] 予算の研究 [illegible] やつているようで [illegible] が、それは何も [illegible] 問題じやなくて [illegible] と原子の研究、つ [illegible] に從うという問題 [illegible] らなのであります [illegible] 話は別ですが [illegible] の（ミツチエル）も [illegible] 大學で [illegible] いうことを、何か [illegible] んだことがあるよ [illegible] しているのであり

斜視

[illegible] 湯發する役 [illegible] 事件に役人 [illegible] が絕對 [illegible] 事件 [illegible] つてゐる [illegible] る日。時は [illegible] 讀者投 [illegible] なるその名も地位 [illegible] 四國のしじまを破 [illegible] り」の實力行使事 [illegible] 上つた。

好學の不夜城と [illegible] 共に誇る [illegible] 學生寮 [illegible] 人、新宇に [illegible] しい [illegible] に襲われ [illegible] つて [illegible] 榮議一決。三叉路 [illegible] せんか左せんか、[illegible] ざるに [illegible] はず路傍の人家に [illegible] 相成つた。「寮ら [illegible] て家人の [illegible] んですが……」。[illegible] ところもあらうに [illegible] 擔當の [illegible] 事件だ [illegible] 大變。

警察、新聞やじ [illegible] 返す現場に現れ [illegible] 人「暴力事件」の [illegible] に及び [illegible] みとられ「これか [illegible] 歩くことにします [illegible] たる面持で地獄 [illegible]